

【意見招請】2022 年度-2024 年度 安全対策研修（渡航者向け／テロ対策実技訓練）

(公示日：2021年12月24日) について、以下のとおり回答いたします。

独立行政法人国際協力機構
調達・派遣業務部長（契約担当）

通番	該当頁	項目	質問	回答
1	P. 4-6	業務仕様書(案) 4-1. テロ対策実技訓練の実施	JICA職員、企画調査員、専門家等がテロ等の脅威に遭遇するのは渡航先の国や地方でのことであり、テロや犯罪の方法や構成員や使用(専門)言語をとってもそれぞれの国や地方で特徴があります。実技訓練を現実に根差した想定において反復して学ぶならば、受講者にとって、実技と言っても日本という日常と同じ環境で学ぶより、身近で血肉となる経験を得られると考えます。故に、テロ対策実技の訓練を渡航(赴任)地にて実施することを推奨します。この現地での訓練実施には、上記の「現実即し」内容の提供に加え、渡航者にとっては日常となる土地で行うべき予防行動が容易に身に付く効果も見込めます。渡航前に一カ所で行わないことで生じる可能性のある地域毎の訓練内容の格差については、事前に本部にて訓練において必須となる概念や項目を事前に決めておき、各地の訓練実施前に本部承認を得る方式により克服できると考えます。受講者の語学力の問題は、現地に行けば、現地語もしくは汎用語としての英語が、とりわけ緊急時には片言であっても理解が必要となりますので、その意味からも現地の訓練実施は効果的です。ただし、個人差による理解力を補うためには訓練実施への日本語通訳者の参加は、受講者の言語能力の状況に応じて対応すべきと考えます。	現地安全対策研修については、本公示内容とは別に実施有無を含めて検討いたします。
2	P. 4	業務仕様書(案) 4-1. (2)対象者	海外における安全対策研修が実施できない現状において、テロ傾向のアップデートを含め、研修や質疑応答の機会をリモートなどで含めるべきではないか。その際、オンラインや録画による研修視聴もスコープに入れておくべきと考えられる。	テロ対策実技訓練については、対面参加を前提としています。
3	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (5)訓練概要③	昨今のテロリズムの傾向をふまえ、内容面にアップデートは必要ないか。特に、①欧州における刃物を用いたローンウルフ・テロの増加、②南北米・アフリカにおける東アジア系に対する人種差別的な暴力(ヘイト・クライム)、③白人至上主義者などの暴力行為、には別個の対応が必要だと考えられる。	具体的な訓練の中身については、技術提案書にてご提案ください。
4	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (5)訓練概要③	ファーストエイドが業務内容に入っているが、研修で求められるファーストエイドの範囲をより明確にすることが望ましいと思われる。	頂いたご意見を踏まえ、公示案にも反映します。
5	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (5)訓練概要③	COVID-19の影響により、世界中で抗議運動や暴動が増加している。暴動からの逃げ方や立てこもりの方法(たとえば即席バリケードの組み立て方)について、実践的に知っておくのが望ましいと考えられる。	具体的な訓練の中身については、技術提案書にてご提案ください。
6	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (5)訓練概要③	テロ等への対応の原則は、Run, Hide and Tellだが、現状ではTellについて取り組みが不足しているのではないかと。身の安全を図りつつ、正しく通報・連絡する手法について、充実させる必要があると思われる。	具体的な訓練の中身については、技術提案書にてご提案ください。
7	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (6)実施回数・場所	従来の訓練に加え、ファーストエイドについてより充実させる計画があるのであれば、研修時間を3.0時間程度に拡張することも検討すべきだと思われる。	研修参加者の負担も考え、限られた時間内での訓練を想定しています。訓練の中身については、技術提案書にてご提案頂ければ幸いです。
8	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (5)訓練概要 ①全体構成は、講義0.5時間以内に留め、	ア) テロに遭遇した場合の対応として「伏せ・移動・脱出・隠れる・バリケード構築」等の実技訓練が想定されますが、一般ビジネスマンが効果的な動作を短時間で習得することは困難です。よって、これら実技訓練は、対応が困難であることを認識する目的とし、テロ脅威の高まりがある場合に、渡航者がどのような行動規制を課すべきかを考えるケーススタディを取り入れることが有効と思量します。 イ) 誘拐・連れ去りに遭遇した場合の実技訓練として、拘束や尋問の模擬体験が想定されます。模擬体験を通じて、渡航者がより注意深い行動をとる効果が期待できますが、誘拐された後に被害者ができることは限られていますので、模擬体験に加えて、予兆の認識訓練、予兆を認識した場合の行動プランを参加者が考える機会を与えることが有効であると考えます。 ウ) 政変・暴動等発生時の渡航者の対応訓練として、退避トリガーを認識する訓練、退避ルート・手段を考えるシミュレーション訓練を実施することが有効と考えます。 エ) テロ、誘拐、銃器犯罪の実技訓練にファーストエイド訓練も含まれる中で2.5時間は短いと思います。効果の高いファーストエイド訓練実施のために、ファーストエイド訓練は別建てとし、別途、2~3時間程度の時間をとることが必要ではないでしょうか。	研修参加者の負担も考え、限られた時間内での訓練を想定しています。訓練の中身については、技術提案書にてご提案頂ければ幸いです。
	P. 5	業務仕様書(案) 4-1. (5)訓練概要 ③実技に含めるべき項目 ●伏せ・移動・脱出の訓練 ●レストラン・事務所等でテロに遭った際の対処法 ●誘拐、連れ去り ●銃器使用犯罪 ●ファーストエイド		
	P. 6	業務仕様書(案) 4-1. (6)実施回数・場所 2.5時間の実技訓練を行う		
9	P. 6-7	業務仕様書(案) 4-2. 渡航者向け研修に関する事務	渡航前の研修はより幅広い渡航者に安全対策に対する基礎知識を提供するもので、幅広い層だけに、日本国内とはいえ、居住地が拡散しているものと想定します。また、受講者の多くが渡航以前の職務を抱え、時間的に都合も各自で異なると考えます。上記の状況を勘案すると、テスト合否判定や修了確認を可能とするオンライン(録画映像のストリーミング含む)およびEラーニングの形式の渡航者向け安全対策基礎研修を推奨します。オンラインならびにEラーニング方式の採用により、期間を限定して各自の都合に合わせて、(最小限の)移動で受講が可能になります。また、基礎的な知識を主とするならば、修了確認及びテストの合否判定を厳格にすることで、十分な効果が見込められると考えます。また、アンケートの集計などもより迅速かつ確に行えるものと考えます。事務についても、教材の電子化などの初期投資を必要とするものの、既存のLMSのフレームワークを活用することで抑えることができ、物理的な講義場所の設営もそれに伴う人員も不要となることで長期的なコスト削減を見込めると考えます。	渡航者向け研修は、オンラインかつライブ(録画ではない)での研修を予定しています。
10	P. 6	業務仕様書(案) 4-1. (6)実施回数・場所	地方における安全対策研修が以前は実施されていたが、地方からそのまま海外に渡航する可能性があるならば、スコープに入れておくべきではないか。	テロ対策実技訓練の地方開催は想定していません。
11	P. 6	業務仕様書(案) 4-1. (6)実施回数・場所	テロ対策実技研修の場所について、COVID-19の対策のため、体育館等のより広い場所で実施することも考慮できないか。	コロナ下での訓練実施については、参加者数を絞る等の感染対策を徹底しています。
12	P. 7	業務仕様書(案) 4-1. (4)会場	訓練実施会場で、必要な現場セッティング(舞台づくり)の程度について具体的に教示いただきたい。 (例:背景パネルを使う、スタジオのように小道具なども用意する、シンプルに椅子や机を使用等)	会場のセッティングについては、シンプルにイスや机を使用するイメージであり、舞台づくりに注力頂く必要はありません。他方、訓練指導者はモデルガンや爆発音等を用意して、臨場感を高めるようにして下さい。
13	P. 8	業務仕様書(案) 5. 表: 主な業務分担(当日)	資料配布、研修実施、アンケートの配布・回収について、アンダーラインが引かれていないものの、p. 6, 4-2 (5)を参照すると「研修資料の事前送付、研修後のアンケート回収等」とある。どちらかに統一すべきと考えられる。	事務支援の一環として、アンダーラインを追加します。
14	P. 13	評価表1. (1) 類似業務の経験 評価表3. (2)-1 類似研修の講師経験	国内に関わらず、「海外も含め座学研修の中で実施した実技訓練」も実績に含めることの可否	実績に含めて頂いて結構です。
15	P. 13	評価表3. (1) 業務主任	評価対象者の経験について、「類似業務」と「総括経験」とは、同一のプロジェクトを記入しても良いのか。それとも別個であるべきか。同一でもよい場合、記入は別個のものとして2回表記すべきか。	「類似業務」と「総括経験」は同一プロジェクトでもかまいません。その際は、「類似業務」と「総括経験」それぞれに記入してかまいません。
16	P. 13	評価表3. (2) 主任講師	業務主任と主任講師が兼務可(P. 10)とあるが、その場合には、業務主任の経験と主任講師の経験は、同一のプロジェクトでもよいのか。	同一プロジェクトでも可です。ただし、別個に経験があれば、それぞれ記入下さい。